

# 波佐ネット通信

No. 17 2015.5.20

## 【地域まるごと博物館／ミステリーゾーン】

### 大人（おおひと）・小人（こひと） 伝承

波佐地方に伝わる大人・小人の足跡の伝承をたどると、大人の足跡は、たたら製鉄（鉄穴流し場・鉦場）遺跡を表し、小人の足跡・杖の跡は、鍛冶屋遺跡を表していることが製鉄関係遺跡から判断される。

大人伝説は、九州南部では大人弥五郎伝説や全国的には、ダイダラボッチと称する大人伝承がある。波佐地方では、ダーダラという土地名が現存しており、ダイダラボッチ伝承との関連性が伺える。

波佐地方に伝わる大人伝承は次のようである。

大人（おおひと）は、当村の西ピラ後山から石仏峠を通過して来たという。大人の足跡は、石仏峠の東側（アンの木）に、その足跡が岩の上に残されている。元は黒瀬山にある大神城という洞窟があるところから行ったともいわれている。広島県の岡原村（北広島町雄鹿原）雲耕にも大人の足跡がある。足跡の長さは1尺2寸（36cm）である。大人は、井野村で糞を排出して落とし、それを当村に投げたが、その落ちた谷を落谷という。そのため地味が肥沃であるという。また、小人（こひと）というものがいて、当村の西北より来て落谷を登り、大神城を南へ行き、南部の大井谷より西に向かい、西谷の頭の横谷（若生）より中央を下り、その足跡は、落谷にあり、大神城の南方十文、大井谷、上横谷にもあった。

今では、開拓されたためになくなったが、栃下（三艘舟付近）には、小人の杖の跡が現存している。河上谷にもあったが、昭和の大水害で流失した。わな手原（屋号・鍛冶屋）にあった小人の足跡は、長さ4寸ぐらいで指の跡まではっきりしていた。これらの伝承に絡んだ旧跡が、落谷の足谷であるという。落谷の黒瀬奥の大神城南方に進むと大潰山を越える安芸街道と交差する十文という地名がある。更に南に進むとダーダラという地名がある。「たたら関係職種」は、同一箇所をサイクル的に移動して、たたら製鉄を行っていた。「糞」というのは、鉄穴流しで採取する「砂鉄」又は鍛冶屋で銑鉄を精製した時にでる「鉄糞」を指すものと考えられる。アンの木の足跡は、長さ37.5cm、横巾15cmの大きさである。

この足跡の西側に、アンの木鉄穴、東側に桂迫鉦がある。右側の写真は、大人の足跡を刻む大人の足跡遺跡です。

